

地震災害1



10月4日は「中標津町防災の日」です。平成6年10月4日の北海道東方沖地震で大きな被害を受けたことから、当時の教訓を生かして突然発生する地震被害を最小限に抑える準備が必要です。

自助

身を守る

危険を回避する

共助

地域を守る

自宅で備える

平時～地震発生前

家具の配置の見直しや固定などを行い、家具の転倒によるケガなどを防ぎましょう。また、自宅での避難生活に備えて食料品や飲料水など、備蓄品や非常持ち出し品の準備をしましょう。



まずは事前の備え

地震発生

グラッきたら!!

0～2分

グラッと揺れたら、まず落下物から身を守りましょう。

- ・机の下に入る
- ・クッションなどで頭を保護する
- ・家具から離れる
- ・ガラス面から離れる



とにかく自分の身を守る

大きな揺れがおさまった!

2～5分

台所やストーブなどの火の始末をしましょう。避難のときは**ブレーカーを落とすこと**、**ガスの元栓を閉めること**も忘れないようにしましょう。



火の始末をし、しっかり火災防止

火の始末のあと

5～10分

自分の身の安全を確保できたら、次のことを行います。

- ・家族の安全の確認、確保
- ・ガラス片や転倒家具に注意
- ・避難のための出口の確保



家の安全確認、確保

外に出たあと

10分～半日

隣近所で安否の確認をして、協力し合い、近隣住民の救出、救護にあたりましょう。

- ・倒壊家具や転倒家具の下敷きになっている人の救出
- ・火災発生時の初期消火活動
- ・けが人の救護
- ・消防署への通報



隣近所の安否確認、助け合い

避難所へ避難後

半日～

避難所の円滑な運営には、自主防災組織、町内会、地域住民の協力が不可欠です。協力して、避難所を運営しましょう。



自主的な避難所運営

屋外の安全対策

地震による被害を減らすために、自宅の安全対策について点検しましょう。

住宅の耐震性に不安がある場合は、耐震診断を行い、補強等を実施するようにしましょう。

屋根



- 屋根のひび割れ、ずれ、はがれなどがないか確認しましょう。
- アンテナはしっかりと固定しましょう。

窓ガラス



- 万が一のためにガラス飛散防止フィルムを貼りましょう。
- 強化ガラスにしましょう。

ブロック塀



- ブロック塀は、ぐらついていないか、ひび割れや破損はないか確認しましょう。
- 鉄筋が入っているか、特に通学路・避難路に面している所はしっかり補強しましょう。

玄関まわり

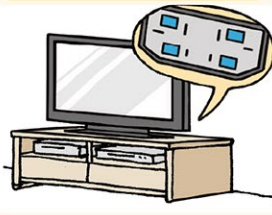


- 通行の支障となるものを置かないようにしましょう。
- 古新聞・古雑誌など引火しやすいものを放置しないようにしましょう。

室内の安全対策

地震時のケガの原因は、家具などの転倒によるものももっとも多く、室内の散乱は逃げ遅れてしまう原因にもつながります。家具の配置や固定具合を見直し、安全対策に努めましょう。

テレビ・パソコン



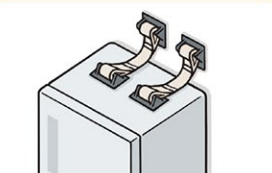
- できるだけ低い位置に固定して置き(家具の上はさける)、金具や耐震マットなどで固定しましょう。

暖房機器



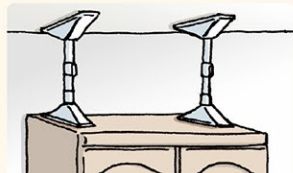
- 自動消火装置付きのものを選び、周囲に燃えやすい物を置かないようにしましょう。

冷蔵庫



- 冷蔵庫ストッパーを用いて冷蔵庫の天板、または側板と壁との間をベルトで固定しましょう。

家具



- 背の高い家具や本棚は、L型金具や突っ張り棒などで固定しましょう。タンス・本棚などに収納するときは重い物を下に、軽い物を上に収納しましょう。

地震の震度

気象庁 震度階級

震度0



揺れを感じない。

震度1



屋内にいる人の一部がわずかな揺れを感じる。

震度2



電灯などがわずかに揺れる。

震度3

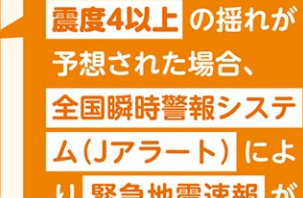


屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。

震度4



電灯などが大きく揺れ、眠っている人のほとんどが、目を覚ます。



震度4以上の揺れが予想された場合、**全国瞬時警報システム(Jアラート)**により**緊急地震速報**が流れます。

震度5弱



大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。棚の食器類、本棚の本が落ちることがある。

震度5強



物につかまらなさと歩くことが難しい。補強されていないブロック塀が崩れることがある。

震度6弱



立っていることが困難になる。固定していない家具が移動し、倒れるものもある。

震度6強



地面をはわかないと動くことができない。耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが増える。

震度7



耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

地震発生! 必ず行うこと

最優先で自分の命を守る!

揺れが来たらすぐに頭を守るなどの安全確保の行動を!

地震災害2



▼ わが家の地震対策チェック

地震による被害を減らすために自宅の安全対策について点検しましょう。
住宅の耐震性に不安がある場合は**耐震診断**※を行い、補強等を実施するようにしましょう。

※1981(昭和56)年5月31日以前に建てられた住宅は耐震性が低いおそれがあります。

破損やひび割れ、ぐらつきはありませんか？

玄関の周りに、自転車や植木鉢など通行の支障になるものを置かないようにしましょう。



屋根の破損、アンテナのぐらつきはありませんか？

ベランダから避難することもあるので、常に整理整頓しましょう。

灯油タンクはしっかりと固定しましょう。プロパンガスボンベはしっかりと固定されているか、配管はぐらついていないか確認しましょう。

背の高い家具や本棚は、L型金具や支え棒などで固定しましょう。重い物は下に、軽い物は上に収納しましょう。

支え棒

出入口や就寝位置と重ならないように家具を配置しましょう。



家具の上に割れやすい物を置かないようにしましょう。

扉にはストッパーを、ガラスには飛散防止フィルムを貼りましょう。

扉ストッパー

カーテンや寝具などは、防災加工されたものを使用しましょう。

家具の下に転倒防止ストッパーを置きましょう。

地震から身を守る最大のポイントは「日ごろの心構え」です。ケガや火災などの二次災害を引き起こさないために、対処法を確認しておきましょう。

▼ 外出中に地震が起きたら

地震が起きたとき、とっさの判断は難しいものです。日ごろから、いざというときの行動を確認しましょう。大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、まずは自分の身を守り、周囲の状況に応じて揺れがおさまるまで待ちましょう。



自動車の運転中だったら…



- 1 ハザードランプを点灯し、周りの車に注意を促す。
- 2 急ブレーキはかけず、緩やかに速度を落とし、道路の左によせて停車する。
- 3 車から離れるときは、カギをつけて、ロックはしない。

鉄道・バスに乗っていたら…



- 1 つり革、手すりにしっかりつかまる。
- 2 勝手に車外に飛び出さない。
- 3 乗務員の指示に従う。

津波に襲われそうな場所にいたら…



- 1 速やかに高台へ避難する。
- 2 より遠く、より高く、より奥へ逃げる。
- 3 警報が解除されるまで海辺や河川には近づかない。

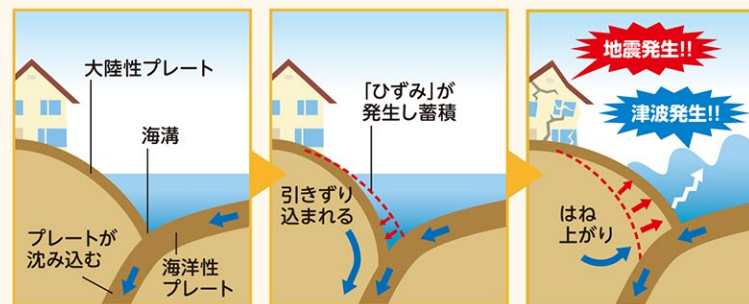
エレベーターに乗っていたら…



- 1 階数ボタンを全て押し、止まった階で素早く降りる。
- 2 万一閉じ込められたら、エレベーターの中の状態をインターホンで通報する。

▼ 海溝型地震と直下型地震

●海溝型地震



海洋性プレートが大陸性プレートの下に沈み込む。

大陸性プレートの先端部が引きずり込まれ、ひずみが発生し蓄積する。

ひずみが限界に達し、大陸性プレートの先端部が跳ね上がって海溝型地震が発生する。

●直下型地震

